

6

病院広報誌

病院広報誌

馬関医心〔2025年新年号～秋号〕

ホームページにてPDF ファイルを公開しています。⇒ shimonoseki.jcho.go.jp/ 病院広報誌 /



馬関医心 QRコード

2025年新年号



2025年春号



2025年夏号

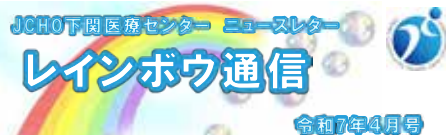


2025年秋号



レインボウ通信〔2025年4月号～2026年3月号〕

▶ 2025年4月号



院長からのメッセージ

早いもので、2025年の春が訪れました。

2025年問題とは、団塊世代が後期高齢者となることで、社会保障費の負担増や人材不足が深刻化する問題のこととされています。その高齢者増加のいびつな人口構成になった2025年になって感じることは、患者さんの年齢で70歳代が若いと認識するようになったことです。とかく60歳を過ぎてくると、実年齢でなくその人の生き様や気力が反映されるようになってきますので、一概に実年齢だけでは言えないところもありますが、総じて70歳は若いと言わざるを得ない時代となりました。

2025年になったら、その次は2040年問題と言われるようになりました。2040年問題とは、日本の人口減少と少子高齢化が進行することにより、2040年に顕著に表面化するさまざまな社会問題の総称で2040年の日本では65歳以上の高齢者が約4000万人となり、全人口の1/3強を占めると予測されています。年金の受給の開始時期のせいで現在65歳以上を高齢者と称しておりますが、もはや70歳以上を高齢者というように改めるべきだと思いますがどうでしょうか。

2025年問題の話をすると未来が期待できなくなりますが、このぐらいにしておきます。

2025年度から谷山久枝看護部長、塚原邦海薬剤部長、宮原広向経理課長が当院に戻ってきました。いずれの方々も当院に長く勤務していただいていた方々ですので、やっとホームグラウンドに戻ってきてきておられたように思っています。脳神経外科の原田主輔先生も当院で初期研修のうちに、熊本大学と関連病院で研修を積み脳神経外科専門医取組後、4月より当院に戻ってきました。そして、4年後の市立市民病院との合併に向けて、2025年3月13日に地域医療連携推進法人の認可が下りました。この法人の具体的な内容は、これからの協議になりますが、復活していただいた方々のパワーと共に、この下関医療圏医療連携推進機構という連携推進法人を活用して市民病院との人的交流等を進めたいと思っておりますので、これまで通り皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

令和6年度
退職医師のご報告

令和7年3月をもって下記の医師が退職いたしました。
在職中は大変お世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。

山下 智省 (消化器内科医師)
松本 怜子 (消化器内科医師)
山谷 俊明 (消化器外科医師)
木下 雅仁 (消化器外科医師)
中川 雄大 (脳神経外科医師)
竹中 裕紀 (耳鼻咽喉科医師)
原 奈津美 (泌尿器科医師)
原 宏二 (泌尿器科医師)
中村 真輔 (歯科口腔外科医師)
川野 起 (臨床研修医)
古賀 加奈子 (臨床研修医)
石崎 菜々子 (臨床研修医)
張 大曉 (臨床研修医)
木下 智貴 (臨床研修医)
奥田 登明 (臨床研修医)

令和7年度
新入医師のご紹介

令和7年4月に新しく採用となった医師をご紹介します。
ご指導ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

大塚 崇史 (泌尿器科医師)
原口 大希 (消化器外科医師)
石井 瑛 (消化器外科医師)
菊池 悠次郎 (呼吸器内科医師)
福永 有里 (皮膚科医師)
原田 主輔 (脳神経外科医師)
高崎 彰久 (健康管理センター医師)
岡田 理 (健康管理センター医師)
岡田 歩 (臨床研修医)
笠尾 未央 (臨床研修医)
満岡 智裕 (臨床研修医)
井上 未来 (臨床研修医)
楠林 英一郎 (臨床研修医)

病院統計 令和7年2月

●紹介率	90.1%	●MSW取扱患者件数 (外来)	29件
●逆紹介率	136.3%	(入院)	553件
●平均在院日数	15.1日	●訪問看護ステーション訪問件数	308件
●在宅復帰率	96.8%	●健康管理センター受診者数	943人
		●奇兵隊ネット利用件数	28件

下関医療センター
公式SNS

病院からのお知らせ、様々な情報を無料でお届けします。



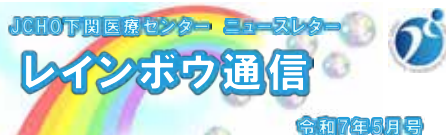
Facebookでもレインボウ通信を配信しています。

下関医療センター
2022年報

当院ホームページのトップページから「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶパンフレットを制作しています。完成いたしましたら、地域の医師に1冊ずつ配属いたします。地域の先生方の御指導・クリニックをぜひ紹介してください。この冊子には sumi@shimane-jcho.go.jp までご連絡ください。

▶ 2025年5月号



菊池 悠次郎 医師のご紹介

5月号では、令和7年度より当院で呼吸器内科の医師として勤務している菊池 悠次郎 (さくち ゆうじろう) のプロフィール、経歴等をご紹介します。



統括診療部長 田中 邦剛 (耳鼻咽喉科)

プロフィール

○出身地・出身高校
島根県立出雲高等学校卒業
○出身大学
山口大学
○資格
日本内科学会 (専門医)

開業医の皆さんに一言

若輩ですが、呼吸器疾患でお困りのことがあればご相談ください。
当科のみで限界があれば、呼吸器外科や他科と連携を取り対応させていただきます。
よろしくお願い申し上げます。



菊池 悠次郎 医師 (呼吸器内科)

診療科の概要

呼吸器疾患は、気管・気管支炎、肺炎、胸膜肺炎、血管病変、骨・軟部病変だけでなく、他科疾患に関連する病変や上記が複合的に絡み合った呼吸不全もあり、多岐に渡ると考えています。可能な限り最新のガイドラインに準拠し積極的に治療を進めて参ります。

消化器疾患全般を対象としたホットラインのお知らせ

これまでは「消化器内科」を対象としたホットラインとしておりましたが、令和7年5月5日より「消化器疾患全般」を対象としたホットラインに運用および名称を変更しました。

内科・外科のどちらに紹介すべきか悩まれるような場合も、「消化器科」として対応しますので、まずはホットラインへご一報ください。

ホットラインに対応する当院の医師は内科と外科が交替わりで対応し、お電話の内容や患者さん来院後の診察により、内科担当か外科担当か振り分けを行います。

詳細は同封しておりますご案内をご覧ください。
脳神経外科ホットラインも引き続き運用して参りますので、ますますのご紹介、よろしくお願い申し上げます。

病院統計 令和7年3月

●紹介率	85.2%	●MSW取扱患者件数 (外来)	33件
●逆紹介率	164.3%	(入院)	535件
●平均在院日数	14.1日	●訪問看護ステーション訪問件数	294件
●在宅復帰率	97.1%	●健康管理センター受診者数	457人
		●奇兵隊ネット利用件数	40件

「レインボウ通信」令和7年4月号の訂正とお詫び

「令和7年度新入医師のご紹介」の医師の所属に誤りがございました。下記のとおり訂正させていただきます。深くお詫び申し上げます。

誤) 高崎 彰久 (婦人科医師) → 正) 高崎 彰久 (健康管理センター医師)
誤) 岡田 理 (婦人科医師) → 正) 岡田 理 (健康管理センター医師)

下関医療センター
公式SNS

Facebookでもレインボウ通信を配信しています。



Facebookでもレインボウ通信を配信しています。

下関医療センター
2023年報

当院ホームページのトップページから「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶパンフレットを制作しています。完成いたしましたら、地域の医師に1冊ずつ配属いたします。地域の先生方の御指導・クリニックをぜひ紹介してください。この冊子には sumi@shimane-jcho.go.jp までご連絡ください。

▶ 2025年6月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
 令和7年6月号

消化器疾患ホットライン（内科・外科共同運用）のご案内

当院では、5月より消化器疾患全般（内科、外科に関わらず）を、消化器内科・消化器外科共同で運用しています。

そのため、従来より迅速かつ、より柔軟に患者対応が可能となります。また、内科が外科が悩ましい症例も気にせずご連絡ください。引き続き、消化器内科・消化器外科への直接のご紹介も受け付けておりますので、よろしくお願いします。

消化器疾患ホットラインの利点

- ①迅速な初期対応と適切な振り分け**
 ○内科的疾患か外科的疾患か判断に迷う症例において、両科の医師が協力して診察することで、より迅速かつ的確な初期診断と専門科への振り分けが可能になります。受け入れ困難症例が減り、受け入れ時間の短縮にも繋がります。
- ②専門性の融合による診断・治療の質の向上**
 ○消化器内科、消化器外科の知識と経験が融合することで、より幅広い選択肢の中から最適な診断・治療方針を決定できます。
 ○複雑な症例や稀な疾患においても、合間で検討することで見落としが減り、より精度の高い医療を提供できる可能性が高まります。
- ③情報共有と連携の強化**
 ○日常的に合間で緊急対応を行うことで、両科間のコミュニケーションがより密になり、情報共有がスムーズになります。
 ○連携強化により、従来よりもさらにシームレスな移行が可能になります。
- ④医師の負担軽減とモチベーション向上**
 ○下関の急性期4病院の消化器内科医は縮小や定員減少となっています。当院では消化器内科、消化器外科が一体となり、全体で業務を分担することで、医師一人あたりの負担が軽減される可能性があります。

この体制変更が、地域の医療機関、患者さんにとって、より利便性よく、質の高い医療提供に繋がれることを願っています。

**担当医師に直接
ご相談いただけます** **診療科ホットライン**

受付時間：平日 8:30～17:00
 ご利用者：医師のみ
 （電話番号の管理にご注意ください）

消化器疾患
080-9951-3360

脳神経外科
080-9958-4698

次のような場合にホットラインをご利用ください。
 ・紹介する前に専門医と相談したい場合
 ・緊急を要する場合
 （これ以外のご利用を制限するものではありません）

ご連絡をお待ちしております。

病院統計 令和7年4月

●紹介率	85.4%	●MSW取扱患者件数（外来）	23件
●逆紹介率	125.7%	（入院）	619件
●平均在院日数	13.4日	●訪問看護ステーション訪問件数	266件
●在宅復帰率	97.3%	●健康管理センター受診者数	884人
		●奇兵隊ネット利用件数	32件

下関医療センター 公式SNS

Facebookでもレインボー通信も配信しています。

下関医療センター 2023年報

当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを制作しています。完成いたしました。地域の窓口ロビー周辺に配置いたします。地域の先生方の診療時・クリニックをぜひ紹介してください。ご希望の方は soumu@shimonoseki.jcho.go.jp までご連絡ください。

▶ 2025年7月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
 令和7年7月号

入退院支援クラウド「CARE BOOK」のご紹介

当院ではこのたび、入退院支援クラウド「CARE BOOK」を導入しました。近年の医療を取り巻く様々な変化に伴い、連携先医療機関とのより一層の円滑な相談・情報共有が不可欠となっています。この課題を解決するために、コミュニケーションツールとして全国的にも利用が広がっている「CARE BOOK」の導入を決定しました。

「CARE BOOK」は、クラウド上で行う入退院支援システムで、テンプレート化された共通の記録・連絡票を用い、チャット方式で入退院支援を行います。特に転院調整において、これまで以上にスムーズで確実な連携が可能となっています。導入により、患者さんの状態やADL、家族状況、希望する支援内容等をタイムリーに情報提供できるようになりました。電話件数の削減による業務の効率化、診療情報提供書PDF添付によるFAX誤送信予防、チャット活用による伝達ミスの予防など、双方の転院調整における業務の効率化が図れています。転院調整がスムーズになったことで、患者さん・ご家族に安心していただける支援につながっています。

今後も、顔の見える連携はそのまに、同じツールを利用した医療連携の実施による更なる連携強化に努めて参ります。

よろず相談

**担当医師に直接
ご相談いただけます** **診療科ホットライン**

受付時間：平日 8:30～17:00
 ご利用者：医師のみ
 （電話番号の管理にご注意ください）

消化器疾患
080-9951-3360

脳神経外科
080-9958-4698

次のような場合にホットラインをご利用ください。
 ・紹介する前に専門医と相談したい場合
 ・緊急を要する場合
 （これ以外のご利用を制限するものではありません）

ご連絡をお待ちしております。

病院統計 令和7年5月

●紹介率	84.1%	●MSW取扱患者件数（外来）	41件
●逆紹介率	124.0%	（入院）	564件
●平均在院日数	13.6日	●訪問看護ステーション訪問件数	286件
●在宅復帰率	98.1%	●健康管理センター受診者数	898人
		●奇兵隊ネット利用件数	24件

下関医療センター 公式SNS

Facebookでもレインボー通信も配信しています。

下関医療センター 2023年報

当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを制作しています。完成いたしました。地域の窓口ロビー周辺に配置いたします。地域の先生方の診療時・クリニックをぜひ紹介してください。ご希望の方は soumu@shimonoseki.jcho.go.jp までご連絡ください。

▶2025年8月号

JCHO下関医療センター ニュースレター

レインボウ通信

令和7年8月号

鼻中隔彎曲症の新しい手術

担当医師に**面談**
ご希望いただけます

診療科ホットライン

受付時間：平日 8:30～17:00

ご利用者：医師のみ

(電話番号の管理にご注意ください)

消化器疾患

080-9951-3360

次のような場合にホットラインをご利用ください。

- ・紹介する前に専門医と相談した場合
- ・緊急を要する場合
- (これ以外のご利用を制限するものではありません)

脳神経外科

080-9958-4698

ご連絡をお待ちしております。

病院統計 令和7年6月

●紹介率	86.4%	●MSW取扱患者件数（外来）	33件
●紹介割合	143.5%		（入院） 595件
●平均在院日数	12.9日	●訪問看護ステーション訪問件数	286件
●在宅復帰率	96.4%	●健康管理センター受診患者数	1,177人
		●奇兵隊ネット利用件数	41件

下関医療センター 公式SNS

Facebookでもレイン
ボウ動画を配信して
います。

下関医療センター 2023年報

当ホームページの
トップページから、
【年報】を
クリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センター
を結ぶフェイスブックページを
制作しています。完成いたしました。
当病の玄関口である
地域に活用いたします。地域の
先生方の御活用、クリックを
ぜひのぞき見てくださいます。
ご協力の列は
yama@yamaguchi-u.ac.jp
までご連絡ください。

▶2025年9月号

JCHO下関医療センター エmergenceレーダー

レインボウ通信

令和7年9月号

呼吸器センターのご案内

2025年4月より、山口大学呼吸器感染症内科より常勤の呼吸器科医師菊池悠次郎医師が専任し、呼吸器外科と呼吸器内科の医師が常時連携できる体制となりました。これを機会に「呼吸器センター」として組織を再編し、当院では、これまで以上に幅広い呼吸器疾患への診療・治療が可能となりました。

当院の呼吸器外科は2015年から森田彦彦が専任し、以来10年にわたり肺癌を中心に多数の呼吸器外科手術を実施してきました。また、すでに総合診療科の専攻医であった齋本浩医師とともに2020年から内科疾患、外科疾患の区別なく多くの症例の診断、治療を行ってまいりました。今後は呼吸器内科・呼吸器外科・総合診療科が一体となった診療体制を構築し、肺癌診療に限らず、感染症や間質性肺疾患なども幅広い領域で治療を行っています。

この10年間で肺癌の早期診断、早期治療のチーム医療が既に確立しています。外科医・麻酔科医・病理医・臨床放射線技師・臨床検査技師・臨床工学士、看護師など多職種が一体となり、特に通常では診断困難と予想される末梢性肺癌症例に対する正確な診断手技の確立（ESIT）、リスクが高い中胚気道狭窄症例に対する深部経管下留置のステント留置術（硬性鏡下Dumonステント留置）の実践など、当院独自のより安全で質の高い医療を提供できる体制を整えました。県内外から専門性の高い呼吸器の参画もありESIT（endobronchial saline injection techniqueと命名）などの新しい手技の開発や、呼吸器領域におけるテキスト、アトラス作成など、臨床研究・教育にも積極的に取り組んでまいりました。

（裏面へ続く）

呼吸器疾患の診療には、外来から検査、手術、術後管理、がん終末期管理まで、多職種との緊密な連携が欠かせません。当センターは「地域の診療所や病院とともに、むしろ呼吸器センター」でありたいと考えています。今後もface to faceの連携を重視し、地域の先生方と協力しながら診療に取り組んでまいります。呼吸器疾患に関してお困りの際には、どうぞお気軽にご紹介、ご相談ください。

文責：呼吸器センター 森田克彦

病院統計 令和7年7月

● 紹介率	89.6%	● MSW取扱患者件数（外来）	35件
● 逆紹介率	121.2%	(入院)	581件
● 平均在院日数	13.2日	● 訪問看護ステーション訪問件数	310件
●在宅復帰率	97.6%	● 健康管理センター受診者数	1,22人
		● 奇兵隊ネット利用件数	40件

下関医療センター 公式SNS

Facebook

Facebookでもレインボウの表情スタンプが使えます。

下関医療センター 2023年報

全概

当協会ホームページのトップページから、「『報告書』」「ご挨拶」をクリックしてご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センター医師会がコラボレーションしています。完成いたしました。当協会の広報誌に一冊追加に配属いたします。地域の先生方の診療術・クリニックを知りたてて下さい。
suzuki@shimonoseki-sho.jpまでご連絡ください。

▶2025年10月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和7年10月号

地域連携検討会・交流会を開催しました

令和7年10月16日にシーモールバラスで地域連携検討会・交流会を開催いたしました。天気はあいにくの雨でしたが、多くの方にご参加いただき盛況のうちに終えることができました。謹んで感謝申し上げます。

眼科・白石理江医師から、緑内障の治療についてお話ししました。緑内障は、日本人の失明原因の1位です。下関市内でもっとも体制が整っている眼科は当院眼科ですので、お困りの際はご相談ください。

消化器内科・加藤彰副院長からは当院の消化器内科の体制について、飯田武医師からはPTEG（経皮的経食道胃管挿入術）について話題を提供いたしました。胃に問題があるなどPEGができない症例があらわれたら、PTEGと当院を思い出していただけると幸いです。

地域連携部からは、昨年度と今年度の経営状況を報告いたしました。昨年度は過去最大の赤字でしたが、本年度は7月から黒字が続いており、4～6月の赤字を飲み込む勢いであることを報告しました。黒字化については交流会で多くの方から質問を受けました。病床利用率がアップしたことが黒字化の主因ですが、医師が目標と達成度をリアルタイムで知る（各科の在院患者数（日別）と新入患者数（月累計）とそれらの目標値が、オーダーリングシステムの最も目立つところに毎日更新されて張り出される）からではないかと考えています。

(裏面へ続く)

数値の話をしましたが、開業医の先生方に相談しやすい病院・頼りになる病院だと思っていれば、目標値は気にしなくても達成されます。日々努力いたしますので、ご愛顧をいただきますよう今後ともよろしくお願い申し上げます。

文責 地域連携部部長 田中邦剛

病院統計 令和7年8月

●紹介率	85.9%	●MSW取扱患者件数（外来）	24件
●逆紹介率	144.2%	（入院）	560件
●平均在院日数	13.7日	●訪問看護ステーション訪問件数	282件
●在宅復帰率	97.1%	●健康管理センター受診者数	1,026人
		●奇兵隊ネット利用件数	19件

下関医療センター 公式SNS

当院ホームページのトップページから、【病院年報・広報誌】をクリックでご覧いただけます。

下関医療センター 2023年報

地域の先生方と下関医療センターを結ぶパンフレットを制作しています。完成いたしましたら、地域の窓口ロビー周辺に配布いたします。地域の先生方の診療所・クリニックまでお届きさせていただきます。

ご希望の方は suumu@shimonoseki.jcho.go.jp までご連絡ください。

▶2025年11月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和7年11月号

診療科ホットライン

消化器疾患 ホットライン
080-9951-3360

脳神経外科 ホットライン
080-9958-4698

お気軽にご相談ください。

受付時間 平日8:30～17:00
対象者 医療機関の先生方
利用目的 ① 紹介する前に専門医と相談したい場合
② 緊急を要する場合
※①②以外のご利用を制限するものではありません。

通常の病診連携予約はこちら
JCHO下関医療センター 病診連携室 直通
TEL: 083-233-6245 FAX: 083-228-0338

新入医師のご紹介 耳鼻咽喉科 潘 友季（ばん ゆき）

このたび山口大学医学部附属病院より着任いたしました潘と申します。至らない点も多々あるかと存じますが、皆さまのお力をお借りしながら、下関の医療に貢献できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

医師の異動のお知らせ

耳鼻咽喉科 医師 増満 俊喜（ますみつ としき）

令和7年10月31日をもって退職いたしました。在職中は大変お世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。

病院統計 令和7年9月

●紹介率	87.3%	●MSW取扱患者件数（外来）	28件
●逆紹介率	137.1%	（入院）	574件
●平均在院日数	14.1日	●訪問看護ステーション訪問件数	307件
●在宅復帰率	96.0%	●健康管理センター受診者数	1,162人
		●奇兵隊ネット利用件数	38件

下関医療センター 公式SNS

当院ホームページのトップページから、【病院年報・広報誌】をクリックでご覧いただけます。

下関医療センター 2023年報

地域の先生方と下関医療センターを結ぶパンフレットを制作しています。完成いたしましたら、地域の窓口ロビー周辺に配布いたします。地域の先生方の診療所・クリニックまでお届きさせていただきます。

ご希望の方は suumu@shimonoseki.jcho.go.jp までご連絡ください。

▶ 2025年12月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボウ通信
令和7年12月号

PTEG（経皮経食道胃管挿入術）のご紹介

先日の地域医療連携検討会においてPTEG（Percutaneous Trans-Esophageal Gastro-tubing：経皮経食道胃管挿入術）についてご紹介しました。

PTEGは経皮内視鏡的胃腸造設術Percutaneous Endoscopic Gastrostomy（PEG）が困難な患者さん（胃切除後や著明な食道裂孔ヘルニア、有腹水症例など）にも、酸欠かつ安全で低侵襲に実施できる頸部食道造設術のことです（図1）。頸部食道（左鎖骨の上数cm付近）にエコー（超音波）と透視で確認しながら食道瘻を作成し、同部よりX線透視下に留置チューブを挿入留置するIVR手技です。手術は30分程度であり、経口摂取も妨げません。

PEGと同様に主に経管経腸栄養法に用いられるほか、末期癌などの腸閉塞における腸管減圧法に用いることもできます。鼻やのどにチューブを留置することがないため、痛みや異物感、違和感などの患者さんのストレスを大幅に緩和でき、誤嚥のリスク軽減にも繋がります。挿入後の管理も容易ですので、長期にわたり経腸栄養管理が必要な方に適しています（図2）。従来の胃腸造設が困難なため、長期間にわたり経鼻胃管での栄養管理を続けられていた症例など、是非一度PTEGをご検討ください。

文責：消化器内科診療部長 飯田 武

図1 図2

**担当医師に直接
ご相談いただけます** **診療科ホットライン**

受付時間：平日 8:30～17:00
ご利用者：医師のみ
（電話番号の管理にご注意ください）

消化器疾患
080-9951-3360

脳神経外科
080-9958-4698

次のような場合にホットラインをご利用ください。
・紹介する前に専門医と相談したい場合
・緊急を要する場合
（これ以外のご利用を制限するものではありません）

ご連絡をお待ちしております。

病院統計 令和7年10月

●紹介率	88.9%	●MSW取扱患者件数（外来）	46件
●逆紹介率	138.9%	（入院）	589件
●平均在院日数	14.0日	●訪問看護ステーション訪問件数	328件
●在宅復帰率	96.0%	●健康管理センター受診者数	1,167人
		●奇兵隊ネット利用件数	50件

下関医療センター 公式SNS
公式Instagramを開設しました。

下関医療センター 2023年報
当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックで閲覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを制作しています。完成いたしましたら、地域の医師・歯科・薬剤師の先生方の診療所・クリニックをぜひ紹介してください。ご希望の方は snumu@shimane-medical-jcho.go.jp までご連絡ください。

▶ 2026年1月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボウ通信
令和8年1月号

低侵襲緑内障手術について

昨年の地域医療連携検討会にて緑内障治療についてお話しさせて頂きました。

緑内障は進行性で不可逆的な視野障害を引き起こす視神経障害で、進行すると失明に至る病気です。

緑内障の治療の第一選択は点眼治療ですが、点眼治療でも視野が進行する場合は眼圧コントロールが困難な場合は手術治療の適応となります。しかし、従来の緑内障手術は手術時間が長く、重度の合併症も起こしやすいことから、なかなか手術治療に踏み込むことができていませんでした。

ですが近年、緑内障手術は流出路再建術を中心に低侵襲緑内障手術（minimally invasive glaucoma surgery: MIGS）という、従来の緑内障手術よりも手術手技が簡便で安全性が高く、短い手術時間で術後の合併症の頻度も少ない手術が広まってきました。

当院ではMIGSの一つである谷戸式マイクロフックという先が屈曲した針金状のものを用いて隅角の線維柱帯を切断する手術をしています。従来の手術と比べると眼圧下降効果はあまり高くはありませんが、安全性や患者さんの負担も軽いため、初回の緑内障手術として選択する機会が増えてきています。

ご不明な点やご相談などありましたら、いつでもお気軽にご連絡ください。

文責：眼科 白石 理江

**担当医師に直接
ご相談いただけます** **診療科ホットライン**

受付時間：平日 8:30～17:00
ご利用者：医師のみ
（電話番号の管理にご注意ください）

消化器疾患
080-9951-3360

脳神経外科
080-9958-4698

次のような場合にホットラインをご利用ください。
・紹介する前に専門医と相談したい場合
・緊急を要する場合
（これ以外のご利用を制限するものではありません）

ご連絡をお待ちしております。

病院統計 令和7年11月

●紹介率	84.9%	●MSW取扱患者件数（外来）	34件
●逆紹介率	133.9%	（入院）	508件
●平均在院日数	14.0日	●訪問看護ステーション訪問件数	250件
●在宅復帰率	96.2%	●健康管理センター受診者数	982人
		●奇兵隊ネット利用件数	38件

下関医療センター 公式SNS
公式Instagramを開設しました。

下関医療センター 2023年報
当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックで閲覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを制作しています。完成いたしましたら、地域の医師・歯科・薬剤師の先生方の診療所・クリニックをぜひ紹介してください。ご希望の方は snumu@shimane-medical-jcho.go.jp までご連絡ください。

▶2026年2月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボウ通信
令和8年2月号

地域連携ミーティングを開催しました

今回で3回目を迎えた本会には、下関市内の看護師・ソーシャルワーカーだけでなく、地域包括支援センター・社会福祉協議会・下関市役所長寿支援課など計24名の方にご参加いただき、以下の点について話し合う有意義な会となりました。

〇ケアブック（入退院支援クラウド）
昨年6月より導入し、転院調整に利用しています。依頼をしてから転院までの日数が14.1日から13.0日に短縮されました。また、電話が減った、FAXの誤送信が無くなった、鮮明な画像が送付できる、送信内容がチャットに残る、日時の間違いが減ったなどの利点がありました。

〇昨年の事例のその後
虐待の事例と脳梗塞の事例について、家族（虐待していた長男・認知症の内縁の夫）にも支援を行い、問題の解決を図りました。

〇今回の事例
身寄り無し、認知機能障害、劣悪な生活環境など様々な問題を持った患者について報告しました。入院当初より地域包括支援センターから多くの情報提供があり、早い段階で本人の状況を把握できました。また、退院後の方針についての相談ができ、スムーズに支援を進めることができました。

〇グループワーク
今回の事例について話し合ったグループ・題材と関係なく地域連携について話し合ったグループと様々でした。市役所職員が参加したグループでは、成年後見人制度についても話し合いました。一つの部署では解決が難しいので、多施設の関係部署が連携していく地域づくりが大切であることを確認しました。



文責 地域連携部長 田中邦剛

診療科ホットライン

受付時間：平日 8:30~17:00
ご利用者：医師のみ
(電話番号の管理にご注意ください)

消化器疾患
080-9951-3360

脳神経外科
080-9958-4698

次のような場合にホットラインをご利用ください。
・紹介する前に専門医と相談したい場合
・緊急を要する場合
(これ以外のご利用を制限するものではありません)

ご連絡をお待ちしております。

病院統計 令和7年12月

●紹介率	87.9%	●MSW取扱患者件数（外来）	44件
●逆紹介率	150.1%	（入院）	615件
●平均在院日数	12.7日	●訪問看護ステーション訪問件数	259件
●在宅復帰率	96.3%	●健康管理センター受診者数	899人
		●奇兵隊ネット利用件数	34件

下関医療センター 公式SNS
公式Instagramを開設しました。

下関医療センター 2024年報
当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを作っています。完成いたしました。地域の玄関口に一歩近くなりました。地域の先生方の診療所・クリニックをばらばら紹介させていただきます。ご依頼の方は snumu@shimomatsuki.jcho.go.jp までご連絡ください。

▶2026年3月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボウ通信
令和8年3月号

血液がん治療の新しい選択肢

〇免疫の力で血液がんを挑む新しい治療の開始
悪性リンパ腫や多発性骨髄腫といった血液がんの治療方針・治療薬は、その病型やステージ（病気の程度）によって異なりますが、多くの場合、複数の抗がん剤を組み合わせた化学療法が行われます。また、がん化したB細胞に特異的に発現しているたんぱく質を攻撃する抗体療法（例えば、CD20に対するリツキシマブなど）が、抗がん剤と一緒に投与されることもあります。リンパ腫の場所が1か所に限られている場合には放射線治療も選択肢の一つとなります。いずれの治療も複数回繰り返して行う必要がありますが、外来で治療可能な場合もあります。最も多い悪性リンパ腫であるDLBCL：びまん性大細胞性リンパ腫は、一般的には抗がん剤治療が効果的ですが、初回の方がこれらの治療で寛解を達成します。これらの治療を行っても効果がでないケースを「難治性」、いったん腫瘍が消えた後に再び出現することを「再発」と呼び、最初に使用された抗がん剤とは異なる薬剤を用いた治療を行う必要があります。再発難治となると、これまでの治療だけでは治療効果を得ることが難しくなることが課題でした。

〇最近、2つの新しい免疫療法が登場
一つは「二重特異性抗体療法」と呼ばれ、患者さんの体内で、正常リンパ球をリンパ腫細胞に引き寄せて攻撃させるというものです。患者さんの正常リンパ球を利用した免疫療法で、再発・難治性の患者さんの4~5割の方に効果が期待できるようになりました。

〇二重特異性抗体とは？
二重特異性抗体は、がん細胞と免疫細胞（T細胞）をつなぎ、免疫ががんを攻撃しやすくなる薬です。体の中で「橋渡し役」となり、免疫の力を引き出します。イラストは、二重特異性抗体の一つ、エビキシンの作用を示したものです。



〔abbvie ホームページより抜粋〕

従来の抗がん剤治療にはない、新たな治療法により、病気をコントロールすることができるようになりました。しかし良い点だけではなく、以下の注意点もあります。

- ・治療は長く継続する必要がある
- ・以下に説明するCRSやICANSといった合併症に注意する必要がある

(裏面へ続く)

免疫療法では、免疫が活発に働くことで発熱やだるさが出る場合があります。このような病態はCRSと呼ばれ、「免疫が過剰すぎる反応」と説明することができます。免疫ががんを戦う過程で起こる体の反応で、多くの場合は適切な対応で落ち着きます。当院では初回投与時は入院で慎重に観察し、異常があればすぐに対応することで、安心して治療を受けて頂ける環境を整えています。また免疫が強く働くことで、一時的に神経の症状が出ること（ICANS）があります。稀な合併症とされますが、早期対応が大切です。この点に関しても、院内で研修を重ねています。

〇他のがんにも免疫療法が進む
多発性骨髄腫や急性リンパ性白血病でも同様の免疫療法が進展しており、患者さんの状態に応じて最適な治療を検討しています。

〇CAR-T細胞療法について
もうひとつの免疫療法、より専門的な免疫療法として、「キメラ抗原受容体T細胞（CAR-T）療法」と呼ばれる治療も開発されています。患者さんの正常なリンパ球を体外に取り出して遺伝子操作を行い、再び体内に戻すという方法です。遺伝子操作を行ったリンパ球がリンパ腫細胞を攻撃します。二重特異抗体に比べると、適応症例は限られますが、当院では適応と判断された場合、大学病院などの専門施設へ紹介し、連携して診療を行っています。血診療における地域中核病院として当院は、

- ・最新治療を地域で受けられる体制づくり
- ・大学病院などの高度専門施設との連携
- ・分かりやすい説明と安心できる診療

を大切にしています。血液がんは治療が進歩している分野です。気になることがあればお気軽にご相談ください。

文責 血液内科部長 堀田涼平

病院統計 令和8年1月

●紹介率	90.1%	●MSW取扱患者件数（外来）	34件
●逆紹介率	153.0%	（入院）	634件
●平均在院日数	13.8日	●訪問看護ステーション訪問件数	256件
●在宅復帰率	96.3%	●健康管理センター受診者数	899人
		●奇兵隊ネット利用件数	32件

下関医療センター 公式SNS
公式Instagramを開設しました。

下関医療センター 2024年報
当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを作っています。完成いたしました。地域の玄関口に一歩近くなりました。地域の先生方の診療所・クリニックをばらばら紹介させていただきます。ご依頼の方は snumu@shimomatsuki.jcho.go.jp までご連絡ください。